

梅雨期にナシ黒星病の果実感染を防ぐ効果が高い薬剤

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－ナシ－病害虫防除
- 2 担当者名 藤田剛輝、日下部翔平
- 3 要旨

「幸水」においてナシ黒星病の果実感受性が高まる満開後 50～90 日頃（平年 6/14～7/24 頃）は、梅雨期に当たるため、効果が高い薬剤が求められる。SDHI 剤のインピルフルキサム水和剤（商品名：カナメフロアブル）及び DHODH 阻害剤のキノプロール水和剤（商品名：ミギワ 20 フロアブル）は、この時期の果実感染を防ぐ効果が高いことが明らかとなった。

- (1) 2021 年の接種試験では、インピルフルキサム水和剤の発病果率が 23.8%、平均病斑数が 1.3 であり、キノプロール水和剤では発病が認められず、両薬剤ともに無処理（発病果率 100%、平均病斑数 19.4）と比較して大幅に被害が抑えられた（表 1）。
- (2) 2022 年の自然感染条件下の試験では、インピルフルキサム水和剤の発病果率が 2.7%、キノプロール水和剤の発病果率が 1.6%であり、両薬剤ともに無処理（発病果率 23.4%）と比較して大幅に被害が減少し、対照のキャプタン水和剤単用より被害が抑えられた（表 2）。
- (3) 両薬剤とも耐性菌発達リスクが高いため、インピルフルキサム水和剤はその他の SDHI 剤を含めて年間 2 回以内の使用とし、キノプロール水和剤は年 1 回の使用とする。

表 1 ナシ黒星病に対する 2 種薬剤の防除効果（2021 年 8 月 11 日調査、接種試験）

供試薬剤	希釈倍数	散布2日後(7/2)接種			
		供試果数	発病果数	発病果率(%)	平均病斑数/果
インピルフルキサム水和剤	4,000倍	21	5	23.8	1.3
キノプロール水和剤	4,000倍	25	0	0.0	0.0
無処理		24	24	100.0	19.4

表 2 ナシ黒星病に対する 2 種薬剤の防除効果（2022 年、自然感染条件下の試験）

供試薬剤	希釈倍数	新梢葉調査 (6/29)			果実調査 (8/19)		
		調査葉数	発病葉数	発病葉率(%)	調査果数	発病果数	発病果率(%)
インピルフルキサム水和剤※	4,000倍	464	7	1.5	403	11	2.7
キノプロール水和剤※	4,000倍	433	7	1.6	368	6	1.6
キャプタン水和剤	600倍	453	4	0.9	362	30	8.3
無処理区		468	6	1.3	354	83	23.4

供試薬剤は7月1日に散布した。※はキャプタン水和剤(600倍)加用を示す。

- 4 成果を得た課題名 令和 3～7 年度 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化
- 5 主な参考文献・資料 梅本清作, ナシ幸水果実における黒星病の薬剤防除法の確立, 千葉県農業試験場特別報告, 37p. 33～41, 1996.